

第79回SGRAフォーラム

「東アジア文化記憶の再読——響きあう言葉と感性」

主催：（公財）渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共催：東京科学大学リベラルアーツ研究教育院

2026年6月27日（土）14：00～17：00

東京科学大学西9号館デジタル多目的ホール
およびオンライン（Zoomウェビナー）

言語：日本語・中国語（同時通訳付き）

参加費：無料

趣 旨

社会の不安定化や価値観の揺らぎが進む現代において、人文学はいかなる視点と言葉によって過去と現在を結び直しうるのか。本フォーラムは、「東アジア文化記憶の再読」という主題のもと、近現代の文学・思想・音楽・映像を手がかりに、東アジアにおける文化の越境、思想や表現の受容と変容、記憶の継承と再解釈について考えることを目的とする。

企画の特色は、民国期の美学思想から現代のポピュラー音楽やテレビドラマにいたるまで、約100年にわたる多様な文化事象を横断的にとらえ、作品や言説に刻まれた歴史意識と文化的位相を読み直そうとする点にある。文学者同士の響き合い、思想の受容と変容、方言をめぐる葛藤、友情の語り、歌われる記憶、映像を通じた共同体像の形成といった諸問題は、それぞれ異なる位相から、文化記憶が国境や時代を超えていかに受け継がれ、編み直されてきたのかを示している。

基調講演と各発表、さらに討論を通じて東アジアにおける文化記憶とは何か、それが文学・思想・芸術の営みのなかでいかに読み継がれ、捉え直されていくのかを、多角的に考える場としたい。

参加にあたってのお知らせ

■ 参加には事前登録が必要です。

QRコードまたはURLからお申込みください。事前登録URL：<https://x.gd/cRfFn>



事前登録画面

■ 同時通訳をご希望の方へ

会場で同時通訳を利用する場合は、Zoomへの接続が必要となります。

インターネットに接続できる端末とイヤホンをご持参ください。会場のWi-Fiをご利用いただけます。

■ 会場【東京科学大学西9号館デジタル多目的ホール】

〒152-8550 東京都目黒区大岡山2-12-1



キャンパスマップ

■ お問い合わせ SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp

■ SGRAとは

関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association/SGRA）は、良き地球市民（Global Citizen）の実現に貢献することを目標に2000年に設立されました。渥美国際交流財団の所在地、東京都文京区「関口」に因みます。SGRAは日本の大学院で博士号の取得を目指して研究を行い、渥美奨学生として共に過ごした外国人および日本人の研究者が中心となり、現代の課題に立ち向かうための研究や提言を、フォーラムやレポート等を通じて社会に発信しています。幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動が狙いで、多国籍の研究者が広汎な知恵とネットワークを結集し、多面的なデータを用いて分析・考察を行います。



プログラム

司会：宋 晗（フェリス女学院大学）

14：00 開会の辞 室田 真男（東京科学大学 リベラルアーツ研究教育院）

【基調講演】

14：05 【基調講演】新美南吉と魯迅そして中国

藤井 省三（東京大学名誉教授）

魯迅（1881～1936）と日本文学との間には、深い影響関係がある。拙著『魯迅と日本文学』（2015年）で論じたように、1902～1909年の日本留学時代から1920年代、五・四新文学期にかけて、魯迅は夏目漱石（1867～1916）、森鷗外（1862～1922）、芥川龍之介（1892～1927）らから大きな影響を受けており、1930年代以後は魯迅が太宰治（1909～1948）、松本清張（1909-92）、村上春樹（1949～）らに深い影響を与えてきた。

そして新美南吉（1913～1943）は、郷土愛知県知多半島を舞台に温かな童心を描いた児童文学者として日本で広く親しまれてきた。また近年、中国においても南吉童話は高い人気を誇っており、その受容の広がりには、従来の南吉像に再考を促している。

本講演は、南吉が魯迅文学、とりわけ「阿Q正伝」を深く読み込み、日中戦争期の中国の民衆に鋭い共感を寄せていた事実を日記・ノート・作品分析を通じて明らかにすることで、「郷土の童話作家」という枠を超えた南吉の世界文学的な側面を提示する。また南吉の反戦意識が村上春樹に継承されて、魯迅—南吉—村上春樹という系譜的關係が成立するであろう点についても検討したい。

第1部 【越境と接触】

14：35 【発表1】近代中国美学における自然観の構築——西洋思想の影響のもとで

丁 乙（北海道大学）

14：50 【発表2】1926年：危機が潜む ピリニャークの極東旅行と国際左翼連帯活動

黄 詩琦（中山大学）

15：05 休憩（15分）

第2部 【言語と感情】

15：20 【発表3】「解説／再現」される方言：林參天『濃煙』における言語政治

賈 海涛（一橋大学）

15：35 【発表4】友情三調：巴金のエッセイ集『傾吐不尽的感情』における文化政治

呉 天舟（復旦大学）

15:50 【発表5】カバーされる記憶：「李香蘭」と改革開放後の中華ポピュラー音楽

楊冠穹（東京科学大学）

16:05 【発表6】テレビドラマ制作からみる「台湾人」表象——曹瑞原作品を中心に

八木 はるな（中央大学）

16:20 【総合討論】

モデレーター：宋 晗（フェリス女学院大学）

討論者（アルファベット順）：陳 言（首都師範大学）、龔 艷（上海師範大学）、吉川 龍生（慶應義塾大学）

16:55 閉会の辞 今西 淳子（渥美国際交流財団）

17:00 閉会

登壇者紹介

（登壇順・敬称略）

宋 晗（そう かん / SONG Han）

1987年生まれ。フェリス女学院大学文学部准教授。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。博士（文学、東京大学）。渥美国際交流財団2017年度奨学生。

専門は日本漢文学、中国古典文学。

単著に『平安朝文人論』（東京大学出版会、2021年）、共著に『<中国の詩学>を超えて：川合康三先生喜寿記念論集』（研文出版、2024年）、『古代文学研究の現在』（青簡舎、2025年）など。



藤井 省三（ふじい しょうぞう / FUJII Shozo）

1952年生まれ。東京大学名誉教授。専攻は現代中国語圏の文学と映画。

主な著書に『中国語圏文学史』『魯迅と日本文学』（共に東大出版会）、『村上春樹と魯迅そして中国』（早稲田新書）、『魯迅と世界文学』『21世紀の中国映画』（共に東方書店）など、主な訳書に魯迅『故郷／阿Q正伝』、張愛玲『傾城の恋／封鎖』（共に光文社古典新訳文庫）、莫言『酒国』（岩波書店）、李昂『眠れる美男』（文藝春秋）などがある。



丁 乙（てい おつ / DING Yi）

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院専任講師。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学、東京大学）。渥美国際交流財団2022年度奨学生。

単著に『二十世紀中国美学『ラオコオン』論争の半世紀』（東京大学出版会、2025）、丁乙訳・千葉雅也著『現代思想入門』（拜徳雅図書、2026出版予定）、共著に『ともに成り行く道、ともに花する世界：東アジアから考えるHuman Co-becomingとHuman Co-flowering』（東京大学東アジア藝文書院、2024）など。



黄 詩琦（こう しき / HUANG Shiqi）

廈門生まれ。専攻は中国文学。2023年京都大学文学研究科中国語学中国文学専攻博士後期課程終了、博士（文学）。日本学術振興会特別研究員DC2を経て、現在中山大学中国語文学系PD。



賈 海濤 (か かいとう / JIA Haitao)

一橋大学大学院言語社会研究科講師、SGRA研究員。華東師範大学中文系卒業後、一橋大学大学院言語社会研究科博士課程を修了し、博士(学術)を取得。東京科学大学非常勤講師、神奈川大学外国語学部外国人特任助教等を経て現職。渥美国際交流財団2023年度奨学生。

研究分野は華語圏文学、文学言語。主な業績に『流動と混在の上海文学——都市文化と方言における新たな「地域性」』(ひつじ書房、2025年)など。



呉 天舟 (ご てんしゅう / WU Tianzhou)

1991年上海生まれ。復旦大学中国文学系博士号取得、同大学中国史博士研究員を経て、現在は復旦大学中国文学系助教、中国現代文学館客員研究員、学術誌『文学』副編集長を務める。専門は20世紀中国文学史、現代文学批評。

『中国現代文学研究叢刊』『南方文壇』『揚子江文学評論』『新文学史料』などの学術誌に論文・評論を多数発表。第1回『揚子江文学評論』若手学者賞にノミネート。



楊 冠穹 (よう かんきゅう / YANG Guanqiong)

1984年生まれ。東京科学大学リベラルアーツ研究教育院准教授。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学、博士(文学、東京大学)。渥美国際交流財団2017年度奨学生。

専門は近現代中国語圏の文学・カルチャースタディーズ。

共著に『越境する中国文学：新たな冒険を求めて』(東方書店、2018)、論文に「中國「八〇後」作家の描く同時代青年像：韓寒『1988～この世界と話したい』における元記者と低層娼婦娜娜」(『東方学』130、2015)などがある。



八木 はるな (やぎ はるな / YAGI Haruna)

1986年、愛知県生まれ。中央大学理工学部准教授。東京大学人文社会系研究科博士課程、単位取得満期退学。文学博士(2018年、東京大学)。高崎経済大学地域政策学部教員を経て、2023年より現職。専門は、台湾を中心とする中国語圏の現代文学。

主な業績は、著書に、『白先勇文学が召喚されるとき——ある中国語作家の創作人生とその受容』(関西学院大学出版会、2026年)、翻訳書に、(共訳)『文学青年育成ガイド——台湾文学史基本教材』(台南・国立台湾文学館、2021年)などがある。



陳 言 (陳 玲玲) (ちん げん / CHEN Yan)

文学博士、首都師範大学外国語学院教授。専門は日中比較文学、日本占領下の文学。

著書に『忽值山河改——戦時下における文化的変容と異質文化の媒介者の証言的叙述(1931-1945)』『万壑有声——日中書問の道』などがある。翻訳・紹介書として『霊台に計なく神矢を逃れず——近代中国留日精神史』『定本・柄谷行人文学論集』などを刊行。



龔艷 (きょう えん / GONG Yan)

映画学博士。上海師範大学教授、博士後期課程指導教員、国家一流本科專攻責任者、演劇・映像学学科拠点責任者。2009年、北京電影学院で博士号を取得。中国民主同盟盟員。中国高等教育機関映画・テレビ協会映像教育委員会副会長、中国映画編集学会短編映画・ショート動画委員会常務理事、中国台湾・香港映画研究会関連映画専門委員会理事。

著書・主編書に『漂移、改写与再造——20世紀四五十年代中国区域電影之形成』『採光閲影——電影私語録』『電影与全思化』『電影研究与哲学的電影学転回』など。また、『文芸研究』『当代電影』『電影藝術』などの学術誌に論文40余篇を発表している。



吉川 龍生 (よしかわ たつお / YOSHIKAWA Tatsuo)

慶應義塾大学経済学部教授。専門は、中国語圏映画・中国近現代文学・外国語教育。

主要論文として、「映像から見た『武訓伝』—孫瑜監督の創作スタイルを手がかりとして—」『東方学』(139)、2020年などがある。霞山会の月刊誌『東亜』に「電影中国」(全8回/2023~2024年)を連載。中国語圏映画の日本字幕翻訳も手がけ、担当作として鍾孟宏監督『余燼』(共訳、2025年)などがある。